

令和3年度 第1回 学校運営協議会 記録

○日 時 令和3年7月16日(金) 15:30~17:00

○場 所 本校 高等部棟2階 図書室

○参加者 学校運営協議会委員 桃山学院教育大学 教授 長谷川 陽一 様
守口市教育センター 所長 佐々木 幸子 様
錦地域コミュニティ協議会 会長 渡辺 人司 様
守口支援学校 学校医 森口 久子 様
門真公共職業安定所 統括職業指導官 須藤 佳子 様
本校PTA会長 宮田 亜希子 様

事務局

青木校長 池田教頭 南出教頭 小枝事務長
室田首席 古賀首席 木村養護教諭 各分掌部長
田鶴谷小学部主事 南中学部主事 石田高等部主事

○内 容

1 学校長挨拶

今年から赴任。委員の皆様は今年度6名中2名の変更があった。ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。

安心安全な学校生活を送れるように努め、コロナ感染対策を施して学習活動を行う。子どもたちも少しずつ落ち着いてきている。昨年度中止したプール学習も日よけの増設、換気、手作りの教員用プールマスクを作成などの対応を行い実施している。

児童生徒数は5月1日現在、新入生小学部9名、中学部24名、高等部15名、計48名で全校児童生徒数は175名。中学部は微増、高等部は微減で児童生徒数はここ数年ほぼ横ばいが続いている。

2 協議会に参加している本校教職員の紹介

学校運営協議会実施要綱について →拍手で承認

学校運営協議会傍聴規則について

運営協議会委員について紹介

運営協議会会長選出…長谷川委員にお願いしたい。 →拍手で承認

運営協議会副会長選出…佐々木委員にお願いしたい。 →拍手で承認

3 学校運営協議会会長挨拶(長谷川委員)

守口支援の未来に向けて様々な提案ができたかと考えている。

コロナ禍において、手作りの足踏み消毒器など校内での対応に細やかな配慮がみられる。プールも実施しているということで、子どもたちが日常を取り戻してもらえたらと思う。安心安全な学校生活を過ごせるようにしてほしい。

4 今年度の学校経営計画重点について（別紙参照）

1 めざす学校像 4つの柱で取り組む。

2 中期的目標 前年度からの追記分

・授業力向上 PDCA サイクルにのっとった授業計画等。

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」を推進するため、国語科をテーマに共有していく。（昨年度は算数、数学）

教育課程の編成を見直す。

全校教科会の前段階として学部の教科会を実施。

学部、教科間等で連携をとる。

・安心安全 コロナ感染対策に向けた連携を。

コロナ不安からの不登校への対応等、心のケアを行う。

5 各分掌より活動計画報告（別紙参照）

【教務部 下田教諭】

経営計画にかかわるところを中心に取り組む。

3 網掛け部分 文言の整理

シラバス・キャリア検討委員会が今年度はなくなる。

シラバスに関しては教務部、研推部、進路部と役割分担し、連携して取り組む。

【進路指導部 古賀首席】

③コース制進路説明会 高等部の内容を知ってもらう目的で研修を行う。

④各学部における進路指導 外部講師（就職した昨年度の卒業生）を招いての研修等も高等部以外、保護者、他学部も対象にして実施する。

【自立活動部 福田教諭】

整形外科相談 外部専門医を招いて対応。前年度希望者が多数だったため、今年度も継続者と新規と計画しながら行う。

動画撮影等で情報を共有していく。（同席できない担任も後で確認できるようにしている。）

自立活動研究会の会場校だがコロナで招致が難しい。授業見学は難しいが、教具を持ち寄る等対応できるように検討中。

【児童生徒指導・通学支援部 坂上教諭】

活動目標 1 通学バス安全研修を行う。日々バス乗務員と連携している。

放課後等デイサービスの窓口として、下校の車誘導も行っている。

2 児童生徒会活動の実施 あいさつ運動の実施。全校集会ができない分、他学部の児童生徒と関われる貴重な場となっている。

コロナ禍で交流ができないが工夫して学部間での活動を行う。

【健康安全部 堀川教諭】

訂正 2. 総務情報部の活動目標 → 健康安全部

活動計画 コロナ感染予防対策の実施 対策委員会を実施し感染予防に努める。
プール活動の実施にあたり、感染拡大防止ミーティングで検討。府教委等からの通達や他の支援学校の昨年度の実施状況調査をもとに内容を決定した。様々な行事が中止になる中、プールに入る子どもたちの笑顔を見ると、実施してよかった。
地震発生時の避難訓練について、体育館で全校集まるのは密になるため、実施せず、2次避難の運動場のみの避難訓練を実施。

【支援部 三田村教諭】

地域連携と校内支援の2つの柱で取り組んでいる。

地域支援 2名のリーディングスタッフが、園や学校への訪問相談、研修会の講師、各種会議への参加等を行っている。北河内5校のチームで取り組んでいる。KITADEのサイトで教材等をネットで公開している。

校内支援 各学部1名校内支援コーディネーターをおき、一元化して情報共有している。

【総務情報部 西川教諭】

情報通信機器の活用 校内整備、教員活動スキルの向上。

iPad 最終児童生徒1人1台を活用した授業づくりが必要。

GIGA スクール構想に対応 ICT 推進担当を配備。教員への活用の提案もしていけたら。

教員への研修も実施できたら。ICT 機器を活用することで日々の授業を豊かにできたら。

安全な医療的ケアの推進 肢体不自由児への対応。少しのタッチで反応する機械を担当へ紹介したり、機器を教えたりすることもしていきたい。

コロナへの対応ができるような取り組みに努める。

【研究推進部 室田首席】

課題別 国語に関する授業改善

授業改善に向けて 研修の計画立案

ミニ研修 夏休み間の教員からの実習を実施

研究協議の充実 働き方改革も踏まえた取り組み 撮影動画を見ての研修等

公開授業 多数の教員の研修ができるように保護者にも協力依頼 年3回

【小学部主事 田鶴谷首席】

小学部の活動目標について読み上げ。

今年度の主な活動計画からは、4つ目 昨年度に引き続き、日々の手洗いやマスク着用について、苦手な児童についても長期的、継続的に取り組んでいきたい。

小学部児童の発達段階として、触れ合いを求める児童も多く、コミュニケーションの一つであることや、信頼関係を高める意味でも触れ合いや近距離での活動が必要な場合も多いが、そ

の中でもできる限りの感染予防、感染対策をしながら取り組んでいきたい。

【中学部主事 南教諭】

中学部の活動目標について読み上げ。

今年度の主な活動計画からは、・2つ目 シラバスや個支計を活用し、多種多様な生徒の実態に合わせた授業を行っていききたい。小学部や高等部との連携も大切にしていきたい。

【高等部主事 石田首席】

資料、両面刷り1枚。「こころとからだの学習」性教育の取り組みについて。

卒業後、報告の中で結婚や妊娠についての相談を受けることが多くなってきた。それを受けて在校中に何を伝えないといけないかが高等部の課題であった。「性教育」を「こころとからだの学習」とし内容を広げ5年間かけて整理してきた。学年別3年計画で系統的に実施している。3年生最後の学習では、少し踏み込んだ内容で行っている。いろいろな問題を抱えて卒業する生徒もいる。「学校はいつまでも相談できる場所」ということを生徒に伝えている。就労に対してのアフター支援は今まで行ってきたが、2年前より担任、進路、部主事、養護教諭の先生に協力をお願いしてアフター支援体制づくりが確立した。現在、1名が定期的に来校。

質疑・協議

教頭から運営協議会会長様へ進行を依頼

【長谷川委員】

今年度は各分掌に加え、各学部からの話も聞けて、整理しやすくなった。

守口支援学校の特徴としてある肢体、知的2つの骨組みが、子どもたちにとって豊かなアプローチができるのではないかと。

それぞれのノウハウの中で説明できている。

進路指導部・自立活動部・児童生徒指導・通学支援部の報告からは子どもを大事にしてアプローチされているのがわかった。

GIGA スクール構想への現実味。他の小・中学校でも見聞きするようになった。構想自体は誰も反対しないが、家庭のWi-fi環境のことや学校環境の不備等の課題が多いので総務情報部に期待しています。

守口支援は、他校のモデルとして今後も発信してほしい。

Q (長谷川委員) 授業づくりの学部間の連携について教えてほしい。

A (高等部) 中3が高等部へ授業見学、作業学習の取り組み、進路学習等を行っている。

(長谷川委員) 小6と中1 中3と高1のシラバスの連携を各教科でもお願いしたい。

Q (長谷川委員) 人権アクションプランの名前の呼び方について詳細を教えてほしい。

A (小学部) これまで呼び捨てや愛称で呼んでしまう場面があり、日常的に「くん」「さん」と呼ぶことを意識できるようにアクションプランとして設定し、文字化することでより意識を高められるようにした。

(長谷川委員) 大変いい取り組み。子どもの人権を含めて大事にしてもらえたら。昨今のジェンダーレスの観点からも、高等部では、男女問わず「さん」の方が良いのではとも思う。発達年齢、生活年齢に沿っての呼び方も考えてもらえたらよいのではないか。

【佐々木委員】

学校経営計画を理解してのそれぞれの取り組みが非常にわかる。

授業づくりの「わかってうごける」というスローガンがとても良いと思った。その視点は、市立の小中学校とかわらない共通するものなのだと思います。

進路指導部の話で、卒業後のことを意識して取り組んでいる。卒業後のケアが大事で、卒業生が相談に来るケースも多くあるのだと思った。卒業生からの学校への還元方法もいい取り組みである。卒業生の活躍の場があるのも良い。

地域支援の面では、日頃からLSの先生にご指導いただき、支えにしている。

ICT教育など地域の学校と共有、協力等できたらいいと思う。

【渡辺委員】

Q (渡辺委員) 先生方のワクチン接種の現状はどうなっているか？

A (南出教頭) 3週間前から土日に職域接種が始まっている。大阪府庁が会場で、明日明後日で1回目の最終接種が終了。

(渡辺委員) ワクチン接種で先生から子どもへ感染することが減る。保護者へ安心を伝えることも大事である。

Q (渡辺委員) 他校で天井が落下する事故があった。施設の老朽化等で、守口支援は危険な箇所はないのか。危険な場所への対策をとられているのか。

A (南出教頭) 係からの呼びかけと点検を行っている。校内でのチェックを行い共有、改善できるかの協議も含めて行っている。

(渡辺委員) 行政は予算主義。毎年要望をあけてほしい。

毎日のバスやデイクの車の誘導ありがとうございます。青パトに乗っている時に見ている。今後もよろしくお願ひしたい。

【森口委員】

世間は第5波の入り口だが、学校の教育活動は継続されているのは非常に大きなこと。学校内の感染もほぼないことにも感服している。

検診も6月末までに終わられた。プール学習も見学させてもらった。プール学習や教育活動への工夫がみられる。一方で、感染予防のための教員の業務負担を学校、委員会も知らないといけない。どのように負担を軽減していくか課題と思う。

コロナ対策だけでなく、基礎疾患への配慮も必要となる。基礎疾患が悪化しては意味がないので、検診は行ってもらいたい。

食後の歯磨き指導は内科的には必要と思うが、現状学校ではストップしている。感染対策と疾病予防も必要。コロナと共存するうえで検討を続けてほしい。

感染予防対策については、バスの乗務員への安全研修等、外部人材への指導が重要である。

守口支援は大阪府下や地域の中でも、センター的役割をはたしている学校である。地域支援の活動を継続して進めてほしい。

高等部の性教育への進め方に感心する。高校生は家庭を持つことも見えてくる年代。障がいがありながらも、妊娠された方が通院していたケースもある。卒業後のアフターケアとして学校がいつでも相談にきていいよという体制は誇れることである。

【須藤委員】

(須藤委員) 6月にクリーニングの授業を見学した。実際のクリーニング店のような作業や対応をしていた。「ほう・れん・そう」を大切にしている、しっかり指導されているなど感じた。

Q (須藤委員) 卒業生の校内還元(卒業生を講師とした進路指導)は以前からしているのか。参加はどれほどか。

A (進路指導部) 進路学習として毎年している。1名ずつ。夏休みに進路の教員で職場に映像をとりに行ったり、在校生から「初任給で何を買いましたか?」といった質問をしたりしている。去年一緒に授業をしていた先輩の姿を見ることで、在校生はとても励みになっている。

(須藤委員) ぜひ継続してほしい。

【宮田委員】

親としては卒業後のことはとても悩む。保護者として卒業後のケアがあることは助かる。

娘は3年の間に1年間だけお世話になった先生でも、会いに行きたがると思う。

名前の呼び方について、厳しく叱る時には呼び捨てでもいいと思っていたが、人権を守るところから「くん」「さん」で呼んでいるということで、自分も気を付けようと思った。

娘は現在生徒会に入っている。みんなの前へ出る機会がなかなかない中、あいさつ運動はしていただいてありがたかった。その期間は朝の準備を早く済ませて生徒会役員としてやる気を見せていた。今後も続けてほしい。

地域との連携について、子どもが地域の中学校に通っていた時に、一般の生徒がどう接したら良いかわからないというケースがあった(茶化したりすることもあった)。一般の同年代の子どもたちへの勉強会や発信等もあるとまた違うと思う。

PTA会長として、今後府へ要望をあげていきたいので、PTAと協力していきたい。今後も何かあればお願いします。

【長谷川委員】

SNSの普及で、子どもたちの情報量が増えすぎている。今後学校での対応もよりお願いしたい。

6 今年度の採択教科書について(教務部長)

各学部一部を並べている。児童生徒の課題や発達段階でグルーピングしている授業も多いため、教科書の冊数が多い。全ての学年の採択教科書は、一覧表でご確認ください。

7 今後の学校運営協議会予定について

(案) 第2回 11月 5日 (金) 15:30～

第3回 2月18日 (金) 15:30～